

業種 学術研究、専門・技術サービス業

株式会社 **プロゴウス**

〒891-0122 鹿児島市南栄3-1-4

設立 1918年12月

資本金 1065万円

従業員数 60名



事業内容 創業105年。活版印刷からスタートしたプロゴウスは、『私たちはたくさんの恵みに心から感謝しながら、大切な人やお客様が幸せになるために働くことを通じて喜びを与え、喜びを感じ、そして感動を共有していく。』という経営理念を掲げ、お客様の一連の業務プロセスを受託するBPOサービス会社として、経営・業務向上、販売促進のサポートを行っています。大正から現在に至るまでの長い歴史の中で培われた経験をもとに、データ活用することを武器にアナログとデジタルの融合を図りながら世の中に対して『最適なコト』を提供していきます。

また、社名の『PRO』には、Professional（職業人/専門家）、Produce（生み出す/創作する）、Promotion（販売促進）、Product（商品/創作物）、Progress（進歩/向上/前進/発展）の意味が込められています。これらの言葉のように、自社の強みを知り、それを最大限に生かしつつ、一人ひとりが自らの仕事に対して『私はプロフェッショナルである』という誇りと責任を持って働いている会社です

一人ひとりが自らの仕事にプロとして誇りを持ちつつ、お客様起点で新たな領域にチャレンジしていく。

距離の近さは働きやすさ

ギスギスした雰囲気は一切ない、風通しの良い社風の会社というのが、プロゴウスの第一印象です。オフィスには社長室がないため、会社のトップである和田社長と社員さんの距離も非常に近く、積極的にコミュニケーションがとられています。社員の声ダイレクトに会社全体の取り組みへと反映されており、社員同士の交流も非常に活発。定期的に行われる1対1のミーティングでは、業務の話だけではなく、プライベートの話もするようにしているそうです。また、社員同士の親睦を深めるための行事も多く行われ、運動会（こ

こ数年はコロナにより休止中）やボウリング大会などの行事は、驚くべきことに通常の業務時間内に行われていたそうです。



これらの取り組みは、お互いのことをよく知れ、働きやすい環境づくりにも一役買っているようです。

それぞれが感じるやりがい

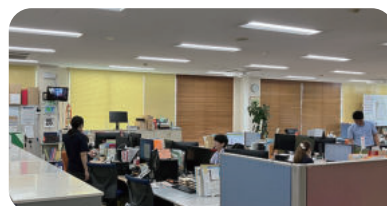
金田さんは、中途入社5年目で現在は事業運営部のチーフ。いま最もやりがいを感じているのは、今後の事業展開について考えてい



●鹿児島市南栄にある本社に、二人でお邪魔しました。



●素敵なお出迎えをいただきました。嬉しかったです。



●オフィス内にはBGMが流れていて、とてもリラックスできる雰囲気です。



るとき。もともとプロゴワスが行っていた印刷会社らしくない取り組みに可能性を感じ、転職を決意したという金田さん。入社後も、新たなこと、面白いことに挑戦しようとする姿勢はまったく変わっていないとのこと。自分の意見を真摯に聞いてくれる先輩たちとともに、新たな事業を模索し、進めていくことにやりがいを感じているそうです。

一方、西山さんは大学での学びを生かせることにやりがいを感じているのだとか。大学時代は、美術を学んでいた西山さんは、デザイン室に配属され、お客様から届く様々なデータを調整し仕上げていくのが仕事。仕事にはとても満足できているが、それ以上に納品物を見てお客さんが喜ぶのを見るのが何よりも嬉しいそうです。

忘れられない仕事

社内運動会の実行委員を務めたエピソードを話してくれたのは、金田さん。運動会と言えば、高校時代などを思い出しますが、話を聞いているとプロゴワスの運動会は、まさにみんなが知っている運動会そのものでした。少し変わっているなど思ったのは、チーム編成が部署横断で行われるため、普段関わりの少ない社員同士がチームメートとなること。部署や年齢、役職などを抜きにして、お互いの親睦を深めることができたイベントになった、と金田さんは嬉しそうに話してくれました。西山さんは、印刷物の数に困惑したエピソードを話してくれました。印刷物は、営業職の社員さんがお客様から依頼されることからスタートするのですが、その日、営業さんから任された印刷物の数は、尋常ではないほど多かったそうです。入社して間もなかった西山さんは、まだ完全には仕事に慣れていなかったため、一つひとつ先輩の助けも借りながら慎重に進め、なんとか納品にこぎつけたそうです。ただ、すべてをやり終えた後の達成感を早い段階で味わえたのは良い経験だった、と話してくれました。

鹿児島で働く理由

インタビューしたお二人は、いずれも鹿児島生まれ鹿児島育ち。県内の大学に進学後、金田さんは中途、西山さんは新卒でプロゴワスに入社。金田さんは、学生時代のアルバイトや部活を通して、すでに社会人の先輩方とのつながりが作っていたらしく、その縁を大切にしたいと考え、鹿児島の企業で働くことにしたそうです。西山さんの決め手は、地元である鹿児島がやっぱり好きだと再認識したためだそうです。就職の際、県外へ出たいという気持ちも湧いたらしいのですが、お世話になった人や仲間、何よりも自分の気持ちを大切にしたい結果、県内で学んだことを活かしながら働ける道に進もうと決めたそうです。



〈担当から学生へのコメント〉

風通しの良さや働きやすさなど、プロゴワスの魅力は語り尽くせません。百年という歴史の中で挑戦を続けてきた会社であり、社員一人ひとりのチャレンジを応援しています。鹿児島のために自分らしく働きたいという学生さんに興味をもっていたら嬉しいです。

事業運営部 岩切



～ 取材後の感想 ～



鹿児島大学
ハン君



鹿児島大学
きょうぺい

会社内での社員同士の積極的な交流が、お客様にも良い影響をもたらしている企業でした。

105年という歴史を持ちつつも、積極的に新しい風を取り入れていて、良い意味でギャップのある、チャレンジングな企業でした。